

ネットワークボード

たまり場ぱれっとのボランティアとして昨年から青山学院大学ボランティアセンター(以下ボラセン)から数名の学生さんが参加してくれています。このボラセンは2011年3月の東日本大震災以降に学生が主体的に活動してきた動きをまとめ、2016年10月に設立されました。このたび『コロナ禍において障がい者が抱える困難および生活状況の変化への実態把握』に関する調査への協力要請がありました。ぱれっととしても内部、外部問わず多くの関係者に声をかけています。集められた声は、SNSを通じてコロナ禍における障がい者の現状として発信されていくとのことです。ぱれっとつうしん読者の皆様もぜひご協力をお願いいたします。(編集部)

【調査内容詳細】

当福祉プログラムはオンライン上で行う活動として、障害の特性やどのような環境が当事者らの行動や意思決定の選択肢を狭めているのか等について、コロナ禍における障害者の生活状況に焦点を当て、SNSを使用した情報発信の取り組みを計画しています。(依頼状より)

※下記QRコードより回答フォームにアクセスできます。



期限：3月31日まで

<http://ur0.work/QQ1R> (フリガナなし)

<http://ur0.work/Uo4U> (フリガナあり)



編集後記



仕事に復帰してから半年が経った。昨年1月末に娘を出産して、産休・育休をとらせてもらっていたのだ。仕事と育児の両立は何とか軌道に乗ってきて、スタッフや家族の支えには感謝しかない。仕事から帰り玄関を開けると、先に保育園から帰っていた娘が夫に抱っこされて出迎えてくれる。私の姿を捉えるとみるみるうちに満面の笑みに変わる娘。『お母さんだ!!!』まだ言葉を話さない我が子の最大限の喜びの表現は、口を横に大きく広げたくしゃくしゃの笑顔と手足をバタバタと振り回す動きだ。夫もそんな娘の様子を見て思わず目尻を下げている。私も再会の嬉しさ(と言っても今朝別れたばかりだが)を余すことなく娘に伝えようとマスクを取り「帰ってきたよ〜!」と笑う。そしてふと、もう長いこと家族以外の人の表情を見ていないことを思う。通勤途中や職場で皆マスクをしている日常にはもう慣れたが、何となく人から発せられるエネルギーを感じられない。くだらない冗談を言って笑い合っていた仲間たちの表情が懐かしい。感染症が収まりマスクを外してまた人と会える時が来たらどんな思いになるのだろう。そしてその頃娘は何歳になっているのだろうかと思う。

(たまい)